

令和6年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

学校番号	1	学校名	岐阜高等学校
------	---	-----	--------

学校教育目標 (教育方針)	1 「百折不撓・自彊不息」の校訓のもと、不屈でたくましい精神力をもった人材を育成する。 2 文武両道をモットーとして、知・徳・体の調和のとれた人間性豊かな人材を育成する。 3 勤労を尊び、思いやりと奉仕の心をもって社会に貢献する人材を育成する。	
3つの方針 (スクールポリシー)	どんな生徒を育てたいか 【G P】	<ul style="list-style-type: none"> <li>グローバルリーダーとなるための資質を備え、将来世界で活躍したり、地域の活性化に貢献したりすることができる生徒</li> <li>「生命」を大切にできる心を持ち、他人の価値観の多様性を認め、互いを尊重できる人権意識をもった生徒</li> <li>自己の能力や適性、興味を理解して自ら主体的に将来の進路を選択・決定する態度を持つことができる生徒</li> </ul>
	生徒をどう育てるか 【C P】	<ul style="list-style-type: none"> <li>知的好奇心を喚起し、主体的な学習態度や人間性を育成するための、質の高い授業の実施</li> <li>将来の社会貢献につながるような、幅広い分野での専門的な内容の体験プログラムの提供</li> <li>探究的な学びや個に応じた学びを重視した適時・適切な支援</li> </ul>
	どんな生徒を待っているか 【A P】	<ul style="list-style-type: none"> <li>不屈でたくましい精神力を持ち、知・徳・体の調和のとれた豊かな人間性を、仲間とともに目指したいと考える生徒</li> <li>勤労を尊び、良心や思いやり、奉仕の心をもって社会に貢献できることを、仲間とともに目指したいと考える生徒</li> </ul>
学校の抱える課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>教職員の指導力を向上させる学び合い文化の醸成</li> <li>観点別学習状況評価から生徒自身が自らの学習を振り返り、次の学習に向かうことができるような支援体制の確立</li> <li>多様化している生徒に対する教職員の多様かつ柔軟な対応</li> <li>進路目標に対し、教科学力が備わっていない少数の生徒への指導</li> </ul>	
教育指導の重点	領域・分野	今年度の具体的な重点目標
	学校経営	①教職員の指導力の向上
	学習指導	①授業重視と主体的な学習態度の育成 ②全校体制による授業改善 ③探究活動による課題解決能力の育成
	生徒指導	①命を大切にできる心や態度の醸成 ②人権意識の涵養と情報モラル意識の高揚 ③個に応じた適時・適切な支援
	進路指導	①教科学力の充実と進路希望達成のための支援 ②大学入試改革へ向けての対応 ③グローバルリーダー養成事業の活用

年度目標				年度末評価(自己評価)					
領域分野	3つの方針・具体的な重点目標の達成に必要な具体的取組・方策	県教育振興基本計画での位置付け		達成度の判断・判断基準あるいは評価指標		取組状況・実践内容 評価項目の達成状況等	評価 A. B. C. D	成果と課題	総合評価 A. B. C. D
学校経営	①教職員の指導力の向上を目指し、教職員が学び合える機会を確保するとともに、教職員が主体的に研修しやすい体制を整備する。	26	施策Ⅳ-26	①生徒・保護者アンケート、教職員の研修受講数		・生徒アンケート「質の高い授業の実施」で95.9%の肯定的な評価を得た。 ・教職員が互いの授業を参観し、自己研鑽する機会を持った。 ・研修受講申込者はのべ79人であった。	B	○教職員の研修等により、質の高い授業を提供できている。 ▲教職員の主体的な研修の機会を確保するため、働き方改革の更なる推進が必要。	
学習指導	①学習に対する生徒による自己評価を充実させ主体的な学習態度を育てる。	8	施策Ⅱ-8	①面談シート、個人面談、授業アンケート		①授業アンケートの結果や教員同士の相互評価を受け、授業改善を実施した。 ②ICTを活用した研究授業や公開授業を行った。 ※授業アンケートにおける肯定的な評価の割合 ・主体的に参加できる授業の展開→97% ・教材等が工夫されていて取り組みやすい→97% ③外部講師を招聘し、探究活動全般に渡って評価と助言をいただいた。	B	○学校アンケートの結果から、学習指導については概ね学校に好意的な評価を得ている。 ○授業アンケートをもとに生徒が主体的に参加できる授業形態を取ることができている。 ▲学習評価を受け、生徒自身が自らの学習を振り返って次の学習に向かうことができる、生徒一人ひとりの能力に応じた適切な支援および指導が必要。	
	②ICTを活用するなど多様な授業形態で探究的な学習を展開する。	8	施策Ⅱ-8	②授業アンケート及びICT活用件数					
	③総合的な探究の時間における探究活動を通して、自ら課題を見つけ、多面的に捉え、主体的に問題を解決する能力の育成を図る。	8	施策Ⅱ-8	③生徒自身による自己評価(評価シート)、研究成果の発表					
生徒指導	①自他をかけがえのない存在と認め、互いを尊重し、命の大切さを実感できる活動を充実させる。	1	施策Ⅰ-1	①いじめアンケート、校内迷惑調査、心のアンケート、交通事故件数、命の尊さ講話アンケート		① ・いじめアンケート以外においても、積極的にいじめを認知し、迅速に対応した。 ・ヘルメット着用率(昨年度22.2%今年度38.8%) ・交通事故件数(1月現在31件昨年度同時期20件) ② ・情報モラル講話を実施した。 ・全クラスで人権LHRを実施した。 ・集会において、情報モラル、人権意識の啓発を行った。 ③ ・不登校生徒の情報共有を密に行い、外部機関と連携して対応した。 ・スクールカウンセラーによるカウンセリングを積極的に行うとともに、職員研修を実施した。	B	○いじめの疑いが生じた時点から、組織的に対応することができている。 ○ヘルメットの着用率が年々増加している。 ▲交通事故数が増加しており、事故防止に向けた更なる啓発が必要。 ▲ネットが関わる生徒間トラブルが発生しており、情報モラル教育の継続が必要。	B
	②他者とその価値観の多様性を認め、正しい人権意識の涵養を図るとともに、情報モラル教育を推進し、情報端末の適切な使用と情報モラルの向上を図る。	2	施策Ⅰ-2	②情報モラル講話アンケート、校内迷惑調査、ネットパトロール報告件数と内容					
	③教育相談活動を充実させ、個に応じた適時・適切な支援を行い、生徒の主体性を育成し自立を促す。	3	施策Ⅰ-3	③生徒・保護者アンケートの分析、生徒との懇談、教育相談・スクールカウンセラー活用状況					
進路指導	①基礎学力講座や学習相談会を実施し、生徒に寄り添いながら主体的に学習へ向かう態度を涵養する。基礎学力を定着させ、底上げすることで大学入学選抜に耐えうる教科学力の充実を図る。	8	施策Ⅱ-8	①各種考査、外部模試の分析結果、学習状況調査の結果		①基礎学力講座、学習相談会を1回ずつ実施できた。教員の主体的な補習授業も実施した。 ②総合的な探究の時間における探究活動の充実を図り、校外での成果発表へつなげた。 ③高等学校DX加速化推進事業(DXハイスクール)の予算を活用し、デジタル人材育成プログラムを数多く実施した。	A	○1年次生を中心に、着実に学力の定着を図ることができている。 ▲デジタル人材の育成を目指し、高等学校DX加速化推進事業(DXハイスクール)を活用した探究活動の更なる改善が必要。 ○グローバルリーダー養成事業は、ほぼ予定通り実施できた。さらに、追加の事業も数多く実施できた。	
	②生徒が自己評価を行う機会や学校生活を振り返る機会を増やし、主体的に進路選択ができる態度を育成する。探究活動を充実させ、課題解決能力を育成する。	13	施策Ⅱ-13	②個人懇談による聞き取り、進路希望調査の分析、探究レポート					
	③各種プログラムへの積極的な参加を促し、自己の能力や適性の理解を促す。また活動の記録の作成し、将来を選択・決定をする能力を育成する。	11	施策Ⅱ-11	③学校評価アンケート、各種プログラムへの参加状況、活動記録の作成件数					

来年度に向けての改善方策等

実施日：令和7年2月5日

学校関係者評価

実施日：令和7年2月5日

- 【学校経営】・教職員の業務をできるだけ簡素化して多忙感を軽減することで、教職員が自らの課題解決のために主体的に研修できるような環境整備に努める。
- 【学習指導】・生徒自身に学習の見通しを持たせるため、学習評価の方針を事前に生徒と共有する場面を設ける。  
・教師同士の授業参観・研究授業の機会を増やす。実践事例の蓄積や共有を組織的に取り組む。  
・教室後部の黒板を有効利用し、生徒が協同的に問題を解決する場面を設けられるよう環境整備を行う。
- 【生徒指導】・交通事故や情報モラル違反の未然防止に向けた啓発を拡充する。  
・担任、学年主任、部活動顧問と生徒指導部(教育相談係を含む)との報告、連絡、相談体制を充実させる。
- 【進路指導】・学習に不安を感じている生徒に対しては、今年以上に学習相談会、基礎学力講座への参加を呼びかけて、生徒に寄り添った学習支援を図る。面談を通して、個別に最適な進路指導を充実させる。  
・高等学校DX加速化推進事業(DXハイスクール)を活用し、講演会を実施するほか、整備された機器を用いてデータサイエンスを取り入れた探究活動を推進する。

- ・情報モラル教育はどのように推進していくのか。  
⇒情報モラル教育は、「日常モラルの育成」と「情報技術の特性の理解」を組み合わせで繰り返し指導している。新入生に対するガイダンス、情報モラル講話のほか、担任等による日常的なモラル指導も重視している。
- ・社会的な問題を取り上げ、生徒が社会に対して貢献できることを考える機会をつくってほしい。
- ・主権者教育について、自分の意見を持ち、それを他者に伝えられるような生徒を育ててほしい。
- ・将来の進路に向けての学びだけでなく、がん教育やプレコンセプションケアについても取り上げるなど、自身の健康を学ぶ機会をつくり、バランスの良い生徒を育成してほしい。
- ・金融教育・消費者教育について、教員だけでなく、様々な立場の外部講師の方も借りながら実施してほしい。
- ・取組みの達成状況を判断するため、KPI(重要業績評価指数)など数値目標の設定も検討してほしい。
- ・岐阜高校は風通しの良い職場である。仕事の効率も良く、生徒に対してもプラスになっている。